

THREE WAYS IN

天才を待たないAI実装を、御社の業務で始める

TFM-Ops は、考える（Thinker）・つなぐ（Facilitator）・つくる（Maker）の三つの役割と AI で、現場に入り、つくり、学びを次の仕事に生かす進め方です。一人の万能な人に頼らず、社内のチームで続けられるようにします。期間と関わり方に合わせて、三つの形で提供します。



Workshop

業務の一つを選び、試作まで進める

単発型 / 1～2日 / 1チーム

御社の業務の一つ題材に、現場の観察から試作、振り返りまでを通します。誰がどの役割を担うかも、この場で決めます。

- 解くべき問いの定義
- 役割の割り当て
- 触れる試作（一つ）



Training

型を使える人を育てる

単発型 / 30営業日・20週 / 25名規模まで

毎営業日、実務を題材に AI と考え、日報を出し、翌朝までに人間のコーチが書いたフィードバックを受け取ります。

- 型を使える社員
- 実務の成果物
- 社内コーチ



AI Lab

業務の改善を常設で続ける

長期伴走型 / 常設

SAZANAMI が御社の AI ラボを受託して運営します。業務課題の実装に加え、AI の最新情報の選別、相談、顧客への提案まで伴走します。

- 業務で使われる仕組み
- 業務に関する AI の最新情報
- 顧客への提案とデモ

COMMON PROMISES 三つに共通する約束

合否を付けない

選抜や脱落はありません。評価は、本人が成長を振り返るための記録として使います。

モックアップを見て次に進むかを決める

次の段階に進むかは、触って試せる試作モックアップを関係者で確かめてから決めます。

知見を社内に記録する

現場で得た学びを、プロンプト・テンプレート・業務フローの形で社内の共有場所に置きます。

フィードバックの文章は人が書く

AI は下書きと事実の確認を担い、受講者向けの文章は人が責任を持って書きます。

社内の運営に切り替えられるようにする

運用の手順書と記録、一部ツール類は御社にお渡しし、SAZANAMI が抜けても続けられる状態を保ちます。

HOW TO START ご相談の流れ

1

現場を見る

業務の流れと、いま止まっている AI の取り組みを伺います。

2

役割を決める

社内の誰が Thinker・Facilitator・Maker を担うかを、一緒に決めます。

3

始める形を選ぶ

三つの形のうち、御社の状況に合う形から始めます。途中で、より長く関わる形へ移ることもできます。

FDE AND TFM-OPS

強い個人を送り込むか、機能をチームに分けるか

FDE（Forward Deployed Engineer）は、顧客の現場に入り込み、その場で AI やソフトウェアを実装するエンジニアの職種です。TFM-Ops は、この先行モデルの強さを、普通の会社のチームで再現できる形に組み替えたものです。

SAME LOOP 同じ六つの工程をたどる

1	2	3	4	5	6
現場に入る	業務の課題を見つける	AI やソフトウェアで解く	得た知見を抽象化する	テンプレートや製品に戻す	別の現場で再利用する

6の「別の現場で再利用する」まで進んで、はじめて現場の学びが次の仕事に生きます。違うのは、この工程を誰が担うかです。



観点	FDE	TFM-Ops
設計の考え方	強い個人を前線に送り込む	前線で勝つための機能を、チームに分ける
能力の出どころ	一人に多くの能力を求める	役割の組み合わせで、能力を再現する
向いている組織	自社プロダクトを持つ企業	プロダクトを持たない一般企業・コンサルティング組織でも導入しやすい
知見の残り方	個人の技になりやすい	仕組みとして残しやすい
得意なこと	現場でつくる	つくったものが、現場で使われ続ける
支援が終わったあと	その人が離れると、工程も止まりやすい	外部の支援が終わっても、社内のチームが同じ工程を続けられる

FDE は「できる人」を必要とし、TFM-Ops は「できるチーム」を設計します。
SAZANAMI が目指すのは、外部の人が去ったあとも、社内のチームが同じ工程を続けられる状態です。

01 WORKSHOP 単発型

業務を一つ選び、試作まで進める

「AI を活用せよ」と言われたまま止まっているチームのためのワークショップです。業務を一つ選び、現場の観察から試作、振り返りまでを1～2日で通します。

期間	人数	参加者	題材
1～2日	1チーム 6～12名	経営・DX推進・現場のリーダー	御社の業務（一つ）

FIVE STEPS 当日の進め方

1 現場に入る TFM

会議、業務の流れ、手作業の表計算、承認の流れを、三つの視点で観察します。

2 問いを定義する Thinker

「何に AI を使うか」から始めず、どの業務課題を解くべきかを先に決めます。

3 合意を設計する Facilitator

現場の不安を聞き取り、誰をどの順番で巻き込むかを決めます。

4 すぐつくる Maker

画面の試作、自動要約の流れ、業務を助けるエージェントなど、粗くても「こういうことです」と見せられるものをつくります。エンジニアでなくても、AI に指示しながらつくれます。

5 知見を戻す チームとAI

何が効き、どこで抵抗が起きたかを振り返り、次に使える形で残します。

WHAT YOU KEEP 持ち帰るもの

- 問いの定義
どの業務課題を、なぜ解くのか
- 役割の割り当て表
社内の誰が Thinker・Facilitator・Maker を担うか
- 触れる試作（一つ）
現場の人が触って意見を言えるもの
- 振り返りシート
効いたこと・抵抗が起きたこと・使えたプロンプト
- 次に取り組む業務と担当者
ワークショップの翌週から動ける状態で終えます

MEASURE 測るもの

問いを立ててから、触れる試作ができるまでの時間。

BEFORE 事前をお願いすること

- ・題材にする業務の選定
- ・その業務の担当者の参加
- ・使える AI ツールの範囲（セキュリティの方針）

NEXT 次の段階

型を使える人を増やすならトレーニングへ。決めた業務を SAZANAMI と続けて実装するなら AI ラボへ。

線引き：品質保証・セキュリティ・本番運用には専門性が要ります。ワークショップでつくるのは「最初の形」までです。

02 TRAINING 単発型

毎日の業務を題材に、AI を使って考える人を育てる

毎営業日、実務を題材に AI と考え、日報を出し、翌朝までに人間のコーチが書いたフィードバックを受け取ります。期間と深さに合わせて、二つのコースから選べます。

短期コース

30営業日 / 1日約90分 / 25名規模まで

自分の業務の困りごとを一つ選び、課題定義・設計・試作アプリ・5分の説明までを一続きで仕上げます。

本編

20週・13スプリント / 25名規模

Thinker・Facilitator・Maker を順に学び、後半は各自の実務課題に当てます。修了後は AI ラボで実案件に伴走できます。

SHORT COURSE 短期コース 30営業日の流れ

T 見立てる	M つくる	見直す	つくり直す	F 伝える	発表
--------	-------	-----	-------	-------	----

Day1-6・18-19 見立てる（Thinker） Day7-16・20-23 つくる（Maker） Day24-27・29-30 伝える（Facilitator） Day17・28 予備日
人と集まるのは Day29 の班の発表会（Sprint Review）だけで、ほかは個人ワークです。

ONE DAY 本編の1日3時間の型

朝会	AI パートナーとの対話	FB処理	ペア	
----	--------------	------	----	--

朝会・共有 20分 AI パートナーとの対話 90分 FB処理 30分 ペアレビュー 30分 振り返り・日報 10分

FIELD RECORD 実施例：事業会社の IT 子会社・受講者25名

24/25名 最後まで継続して参加	97% 日報にフィードバックが届いた割合	73〜84% 受講者がフィードバックに返信した割合	42% フィードバックが72時間を 超えて届いたときの返信率
----------------------	-------------------------	------------------------------	--------------------------------------

本編の途中（2026年8月時点）の集計。運営は社内コーチ5名・SAZANAMI 1名・運営を助けるAI。

WHAT YOU KEEP 持ち帰るもの

- 型を使える社員
問いを立てる・人を巻き込む・自分で試作をつくる（エンジニアでなくても）
- 実務の成果物
受講中の課題は、実際の業務から選びます
- 社内コーチ
修了者が、次の期のコーチを務めます
- スプリントごとの成長記録
人事評価には使わないことを、契約に明記します

HANDOVER 本編を続けるなら、3期で社内に渡す

1期	2期	3期
SAZANAMI が運営とコーチを担う	1期の修了者がコーチ。SAZANAMI は品質の確認へ	社内だけで運用。SAZANAMI は月1回の見直し

BEFORE お願いすること

- 学習時間を業務時間内で確保すること（本編は1日3時間、短期コースは約90分。上長の合意）
- 社内コーチ候補の時間の確保
- 社内の運営窓口 1名

03 AI LAB 長期伴走型

SAZANAMI が常設で運営する AI ラボ

SAZANAMI が御社の AI ラボを受託し、次の四つを続けて担います。得た知見は記録として御社にお渡しし、いつでも社内の運営に切り替えられる状態を保ちます。

形態	立ち上げ	体制	関わる部門
常設。SAZANAMI が受託して運営	最初の6か月	御社の担当チーム＋SAZANAMI	事業部門・IT 部門・営業部門

WHAT WE RUN ラボで SAZANAMI が担うこと

1 業務課題の実装

業務課題を一つずつ、問いの定義から試作、業務への定着まで進めます。実案件にも伴走し、触れる試作モックアップを見て次に進むかを決めます。

3 相談（コンサルティング）

どの業務から AI を入れるか、何を社内で作るかを買い、社内のルールをどう決めるかの相談に応じます。

2 AI の最新情報の選別

新しいモデル・ツール・他社の事例から、御社の業務と方針に関係するものだけを選び、使いどころと注意点を添えて届けます。

4 顧客への提案の支援

御社が顧客に AI を使った提案をするとき、提案内容の設計、触れるデモ、提案資料づくりを支援します。

WHAT YOU KEEP 社内に残るもの

- 業務で使われている仕組み
業務ツール・AI エージェント・ダッシュボード
- 顧客に出せる提案とデモ
御社の名前で、顧客に提案できる形で仕上げます
- 知見の資産と運用手順書
議事録・意思決定ログ・プロンプト・テンプレート・業務フローなど11種の形で記録し、社内で同じ工程を続けられるようにします

MEASURE 測るもの

1 問いから成果物まで

問いを立ててから、レビューできる成果物ができるまでの時間

2 再利用率

一度の学びが、次の業務や提案で再利用された割合

3 社内で続けられる範囲

SAZANAMI の支援なしで続けられるようになった業務の数

OWNERSHIP 課題の記録

ラボで見えた課題の記録は、御社のものです。確認なしに、SAZANAMI の営業案件にはしません。

REUSE 他社への転用

他の案件で使うのは、御社が承認し、匿名化した「型」だけです。機密・個人の評価・発言者は含めません。

SCOPE 線引き

品質保証・セキュリティ・本番運用は、御社や専門家と分担して進めます。